

# 「中国・3都市（上海、青島、大連）を “一見観（前編）」

富山県貿易・投資アドバイザー 野村 允

## はじめに

3月8日から15日までの8日間、中国の3都市（上海、青島、大連）を訪問する機会を得た。今回の訪問目的は、①今、日本でも注目されている3都市の近況、②3都市に進出している富山県企業の現状、③今後、富山県と3都市とのさらなる経済交流の可能性の有無——などを探ることにあつた。ただ、今回の3都市への訪問期間がそれぞれ短かったことや訪問先が中国国際貿易促進委員会支部、ジェトロ、数社の富山県企業等に限られていたため、訪問目的を十分果たし得たとは言えなかつた。

本稿は、今回の訪問目的に沿って見聞した事情を簡潔に、かつ羅列的にまとめたものである。

## 1 3都市の特徴的な表情

3都市の概況は表1の通りである。

### (1) 上海市

大正時代上海市に住んでいた詩人島津四十起

は、1920年代の上海を「フランス、ドイツ、イギリス、その国々の文明に輝く、バンドの建物、自動車帯の如く連り、黄浦江上1万トンの艦艦（軍艦のこと）浮ぶ」と歌っている。

3年振りに、“バンド”の景観に魅了されながら旧市街の一画を徘徊すると、上海市が中国経済の中心地、流行の先端地と言われているだけに、北京市にはない“自由”と“解放感”を肌身で感ずる。今回の短い時間の滞在の中で、特に印象に残ったことを以下のようにまとめてみた。

①市内中心部の一角にある“味千ラーメン”の店内（とんこつラーメンの店）は異様な賑わいを呈していた。店の壁が大型の相撲の錦絵で彩られている雰囲気の中で、大声で談笑している家族連れ、若者たちの姿、入店の順番を待つ切れ目のない行列を見た時の驚きは極めて大きかつた。熊本市に本社があり、国内外合わせて170店舗を展開している“味千ラーメン”は、そ

表1 上海・大連・青島 3都市の概況

|              | 上 海                                                              | 大 連                                              | 青 島                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 概 要          | 直轄市。中国最大の国際都市、かつ中国経済の中心都市                                        | 遼寧省内における経済・交通面の要所。東北3省の玄関口                       | 中国東部沿岸にある主要な経済中心都市（中国の重要な通商港を有する）国家レベルの歴史文化都市であり有名な観光地 |
| 面 積          | 6,341km <sup>2</sup>                                             | 1万2,574km <sup>2</sup>                           | 1万654km <sup>2</sup>                                   |
| 人 口          | 1,674万人                                                          | 589万人                                            | 716万人                                                  |
| G D P        | 4,551億元                                                          | 1,111億元                                          | 1,316億元                                                |
| 平均賃金         | 15,439元                                                          | 11,901元                                          | 11,426元                                                |
| 日本からのアクセス（週） | 成田58便、関西28便、名古屋11便、福岡14便、札幌2便、仙台2便、福島2便、新潟2便、岡山2便、広島3便、長崎2便、沖縄2便 | 富山4便、成田15便、関西8便、名古屋2便、福岡4便、広島2便                  | 成田4便、関西4便、福岡3便                                         |
| 中国国内航空便（週）   | 76都市（瀋陽38便、大連55便、青島67便、天津35便、北京213便、広州100便、香港70便）                | 45都市（瀋陽14便、上海55便、青島40便、天津15便、北京122便、広州21便、香港10便） | 44都市（上海11便、北京8便、大連7便、広州7便、ハルビン8便、瀋陽7便等）                |
| 富山県進出企業      | 17企業（YKK、北陸銀行、川田工業、不二越、米原商事、タカギセイコー等）                            | 15企業（YKK、木下食品、サンエツ精工、リッチェル、中部工営、日本オープンシステムズ等）    | ㈱トータル・サウンド・スタック                                        |
| 日本進出企業       | 約2,780企業（松下電器、パイオニア、NEC、東芝、キリン等）                                 | 約1,740企業（東芝、グンゼ、TDK、キャノン、TOTO等）                  | 約200企業（山口銀行、松下電子部品工業、三洋電機、ライオン、カルビー食品、ペンダ工業等）          |
| 日本人長期滞在者     | 約10,000人                                                         | 約1,600人                                          | 約1,100人                                                |
| 経済・産業        | 中国経済の製造、国内販売、研究開発の拠点都市となっている。                                    | 環境を重視した観光、国際商業、ハイテク産業都市を目指している。                  | 各業種の大手外資企業とともに中国第1位の家電メーカーハイアールの立地など視野の広い産業構造を形成。      |

資料：3都市資料から作成

の土地の文化と地域性を考慮した味の調査を行いながらも、創業以来の製法は守り続けているということであった。

②近年、リアの導入を実現するなど、常に世界の先端を走ろうとしている上海市では、経済の発展に伴う個人所得の向上によって市民のライフスタイル、消費構造の先進国化が一段と進んでいる。特に、日本風のライフスタイル(厨房設備、家具調度品、車のアクセサリ、子供用品、入浴剤など)への関心が高まっているということである。

③現在、上海市では20階以上の高層ビルが2,000棟以上あるが、空室率は平均18%(日本は8%程度)と推測されているにもかかわらず、建築中の高層ビルを方々で見ることが出来た。夜半、ホテル周辺で花火があがった。高層ビルの間から、次々とあがっては消える花火を眼下に見ることが出来た。“女性の日”(3月8日)を記念してあげられた花火ということであった。

④上海市は、第10次5ヵ年計画で「上海を現代的な国際大都市とし、経済、金融、貿易、運輸各面の国際センターとする」という目標を掲げている。これらの目標達成のための戦略として、長江デルタ地域内での激しい企業誘致競争の中で、江蘇省など後背地との地域間産業調整の推進があげられている。また、市街地中心部の美化を進めることによって、誰もが住みたくなるような街づくりにも重点を置いている。このことは、現在進められている各種の大規模な都市計画事業の完工によって、世界中の人が上海市を居住地として憧れる街にすることこそが、上海市に高付加価値産業を呼び寄せることにもなるという考え方があるからであろう(図1)。

図1 上海市の将来の姿



資料：『ジェットロセンサー』2002/11

## (2) 青島市

1932年、事実上戦争状態となった日本と中国の現状を視察するため、国際連盟から「リットン調査団」が日本、中国に派遣された。団員の

一員であったシュネー(ドイツ人)の手記「満州国見聞記」によると、当時の青島市について「青島では、名実ともに誇りと憂いのまじった感情が蘇ってきた。今、青島の外観は全くドイツの都市という感じであった。日本人が同じスタイルで建設を続け、中国人も忠実に原型を保ったからである」と記している。

青島市の訪問は2度目であったが、今回もまた、シュネー氏の見聞記を想起させるような旧市街の景観(欧州風独自の街並みは逐年薄れてきたとはいえ、色彩にその名残りを残している)と近代化されつつある新市街とのバランスのとれた都市構造は訪れる人に安堵感を与える。

以下、山口銀行、住友商事の各支店長との懇談を主体に、青島市の動きをまとめてみた。

①青島市への外資企業の立地は好伸びしている(表2)。特に韓国の大手企業の進出が目立つ。最近、釜山商工会議所と青島市との提携による工業団地建設(100社程度入居見込み)の動きがある。

②青島市の産業構造は、食品(青島市—農水産基地)、ニット関連(同—綿花産地)、電機・電子機器、消費財関連(ナイキの靴など)など裾野の広さを特徴としている。ただ、華東、華南に比べて機械部品の集積度が弱く、一部外資企業では上海、大連から部品調達をしており、青島市に拠点を置くハイアール(中国第1位の家電メーカー)も部品を一部輸入に依存している。

③従来、青島市は大連市に対するライバル意識が極めて強かった。近年、青島市は港のコンテナ取扱量(中国第3位)、2008年オリンピックのヨット競技地に決定、豊富な水などいくつかの優位性をバックに大連市に対しては自信を示しているようである。

④青島市は、山東省内の地域間格差を是正するため、年2億元を拠出するなど省における拠点性を高めている。

⑤青島市の日系企業は、近年、合併よりはむしろ独資型が増えてきたが、アサヒビールと青島ビールとの合併、三洋電機とハイアールとの包括業務提携など日中協力型のケースが目立ってきた。

⑥青島市には、日本人会(156社)があり、常



青島市

表2 青島市外資企業投資件数等推移

| 区分                 | 1984~91 | 1992  | 1993  | 1994  | 1995  | 1996  | 1997 | 1998 | 1999  | 2000  | 84~00<br>累計 | 累計構成比<br>(%) |
|--------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------------|--------------|
| 契約件数(件)            | 326     | 761   | 1,399 | 743   | 718   | 715   | 617  | 553  | 714   | 1,128 | 7,674       | 100.0        |
| 香港                 | 159     | 368   | 572   | 210   | 159   | 105   | 95   | 82   | 105   | 132   | 1,987       | 25.9         |
| 台湾                 | 40      | 131   | 286   | 141   | 96    | 81    | 56   | 59   | 52    | 92    | 1,034       | 13.5         |
| 日本                 | 33      | 39    | 71    | 54    | 70    | 61    | 55   | 46   | 58    | 106   | 593         | 7.7          |
| シンガポール             | 12      | 14    | 38    | 26    | 21    | 31    | 11   | 14   | 14    | 12    | 193         | 2.5          |
| アメリカ               | 31      | 92    | 160   | 73    | 69    | 91    | 71   | 78   | 72    | 82    | 819         | 10.7         |
| 韓国                 | 33      | 70    | 126   | 171   | 248   | 267   | 255  | 190  | 328   | 560   | 2,248       | 29.3         |
| ドイツ                | 2       | -     | 8     | 8     | 4     | 9     | 6    | 10   | 12    | 19    | 78          | 1.0          |
| 合同投資総額<br>(100万ドル) | 459     | 1,107 | 1,828 | 1,145 | 1,467 | 2,801 | 739  | 984  | 1,727 | 2,662 | 13,809      | 100.0        |
| 香港                 | 212     | 661   | 810   | 401   | 419   | 180   | 103  | 234  | 507   | 582   | 4,109       | 29.7         |
| 台湾                 | 39      | 96    | 252   | 96    | 59    | 79    | 39   | 57   | 132   | 201   | 1,050       | 8.0          |
| 日本                 | 71      | 85    | 79    | 50    | 222   | 174   | 58   | 67   | 62    | 154   | 1,022       | 7.4          |
| シンガポール             | 13      | 25    | 137   | 162   | 82    | 79    | 76   | 24   | 58    | 23    | 679         | 4.9          |
| アメリカ               | 47      | 100   | 112   | 82    | 117   | 152   | 64   | 130  | 337   | 412   | 1,543       | 11.2         |
| 韓国                 | 49      | 80    | 200   | 280   | 436   | 681   | 193  | 198  | 253   | 665   | 3,035       | 22.0         |
| ドイツ                | 7       | -     | 14    | 33    | 16    | 79    | 1    | 14   | 37    | 72    | 273         | 2.0          |

注：香港にはマカオを含む。

資料：『北東アジアの産業連携 / 中国北方と日韓の企業』関満博

駐日日本人(居留証ベース)1,100名と推測されている。最近、日本との交通手段の充実もあり、青島市の日本に対するアプローチが急速に高まってきている。

⑦陸海空の全面開放による“北方のハブ化”を目指す青島市の発展計画は、まず、港湾機能を青島港から黄島にある新青島港へシフトさせるため新港の整備が行われている。本年7月には、欧州、香港、台湾、中東航路が全て新港へ移される予定である。また、2008年オリンピック開催までの5年間に、約100億ドルを投資して、ヨットハーバーのほか、地下鉄の建設、新旧両市街地を結ぶ高架道路、青島空港の滑走路延長(欧米便の就航予定)第2空港ビルの建設などが進められている。そのほか、青島保税區には、台湾、韓国、香港の工業団地および自動車交易センター、建材展示センター、国際商品展示センターなど5つのセンターがつけられる予定である。

### (3) 大連市

前述の「リットン調査団」の一員であったシュネー氏の「満州国見聞記」の中で、特に大連港について「大連港は既に、ロシア時代につくられたが、日本の管理下におかれて以来、非常に発展し、改良された。岸壁には8,000トンから1万トン級の船14隻と小型船18隻を同時に横づけすることが出来た。大連港は世界屈指の大商港であらゆる国の艦船が入港しており、ドイツ船もかなりいた」と記されている。

戦前、東洋一ともいわれた大連港の外観は、今は一変し、その港湾機能は大窯湾港へシフトしつつあるが、コンテナ取扱量(120万TEU 2001年)で中国第8位の地位を有する大連市は、今なお中国北方における主要な国際港湾都市であることは確かであろう。

以下、中国国際貿易促進委員会大連市分会との懇談の中で聴取した大連市の新しい動きをまとめてみた(注：「AJEC REPORT」No 31号・

2003/3発行の“大連建設を目指して”を併せて参照していただければ幸いである)。

①最近、大連市では、金州地区に部品加工センターが完成するなど部品関連の施設がいくつかつづられている。これまで大連市に立地している日系企業からの大連市政府に対する強い要請が、漸く実現しつつあるといえよう。

②これまで、日系企業を主体に一部部品(ケーブル、ベアリングなど)は日本からの輸入に依存していたが、最近、価格面で日本から欧州へのシフト傾向が見られる。

③トヨタと第一汽車との業務提携に関連して、大連開発区内に自動車部品メーカー(ディーゼルエンジン関連)向けの工業団地を建設する計画がある。

④3月14日の夜、大連市郊外の住宅地域にある小さな“隠れたレストラン”『阿房宮』へ案内された。店内は、大連市駐在の日本人、中国人の若きカップルなどで賑わっていた。店内を包む和やかな雰囲気とソフトな接客マナーはこれまで張りつめていた緊張感を一ぺんに払拭させてくれた。日本の地方都市では、住宅地の中に小さな“隠れたレストラン”が出現し、人気を集めているが、大連市でも、市民の食生活の多様化が進んでいるのであろう。(次号続く)



大連市